

京都市交通局 市バス・地下鉄事業経営ビジョン検討委員会 第3回 会議資料

<目次>

◆	本日の議題について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
1	お客様の動向について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2～3
2	今後の事業の方向性と取組の検討について	
テーマ1	安全運行の確保について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
テーマ2	質の高いサービスの提供について・・・・・・・・	P 5
テーマ3	市バスの混雑対策について・・・・・・・・	P 6～7
テーマ4	利便性・快適性の向上について・・・・・・・・	P 8～11
テーマ5	まちづくりの視点に立った取組について.....	P 12～13
テーマ6	経営基盤の強化について・・・・・・・・	P 14～16

平成30年3月20日
京都市交通局

◆ 本日の議題について

これまで2回の検討委員会でご説明した経営の現状と課題、また経営基盤強化に向けた取組の方向性を踏まえ、本日は、今後の事業面での取組の方向性や具体的な取組について、幅広くご意見をいただきたく考えています。

[これまでお示した現状と課題]

経営の現状と今後の財政需要

- ・市バス事業は、今後車両更新をはじめとした多額の設備の更新費用のほか、全国的な運転士不足の中で管理の受委託先の労働力確保の費用増も見込まれます。
- ・地下鉄事業は、未だ全国一厳しい財政状況の中、一般会計からの経営健全化対策出資金が終了するとともに、多額の車両・設備更新費用が見込まれます。
- ・両事業とも、今後の財政の見通しは楽観できる状況にはありません。

交通局の役割・取り組むべき課題

- ・ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」のリード
- ・人口減少社会に挑戦する京都のまちづくりを支える役割
- ・将来にわたる安定的な運営の確保
- ・市バスの混雑対策
- ・地域主体のモビリティ・マネジメント活動との連携
- ・安全対策の強化（烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置など）
- ・利便性、快適性等の向上
 - （路線・ダイヤの充実、ICカードの普及促進、市バス均一運賃区間の拡大、市内周辺部を含めたバス待ち環境の向上、市バス・地下鉄ネットワーク全体での利便性向上 など）

[今後の取組の検討]

経営基盤強化の取組の方向性

財政の見通しが厳しい中、取り組むべき課題に対応していくため、これまで実現してきたお客様増加策の経過を踏まえ、収入増に重点を置き取組を進める。

本日は、まず「お客様の動向」についてご説明させていただきます。

次に、市バス・地下鉄が、今後も市民の足として、また京都の都市活動を支える役割を果たしていくため、どのような視点を持ち、どのような取組を進めていくか

について、以下のテーマ別に、幅広くご意見をいただきたいと考えています。

- テーマ1 安全運行の確保について
- テーマ2 質の高いサービスの提供について
- テーマ3 市バスの混雑対策について
- テーマ4 利便性・快適性の向上について
- テーマ5 まちづくりの視点に立った取組について
- テーマ6 経営基盤の強化について

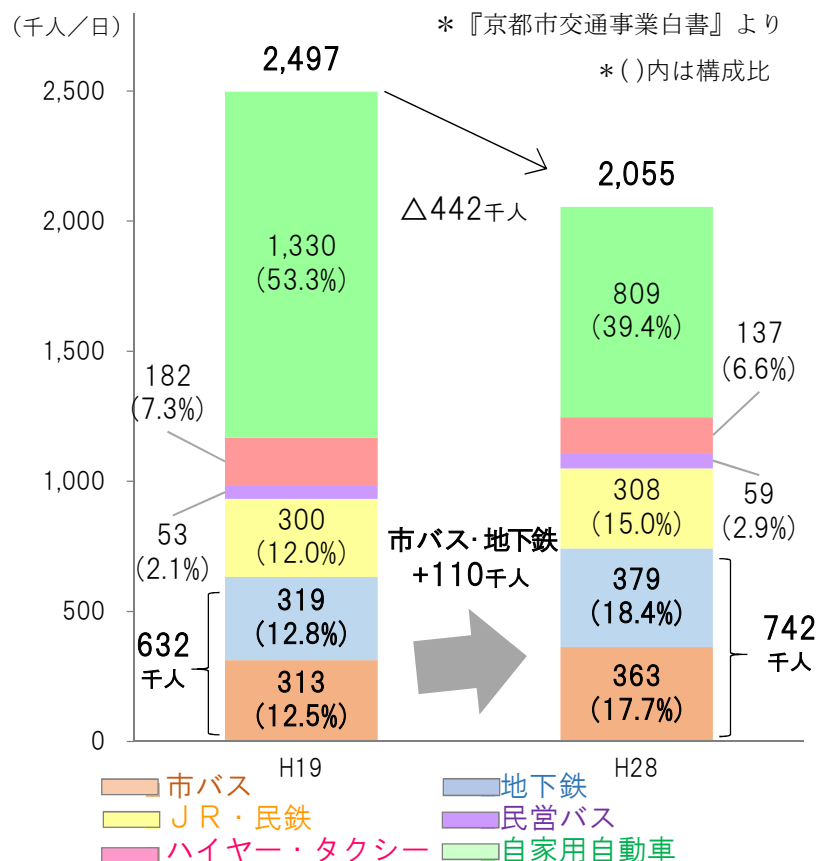
各テーマごとに、「現在までの取組や、市会・ご利用者からのご意見」などについて、資料に基づきご説明させていただきます。

1 お客様の動向について

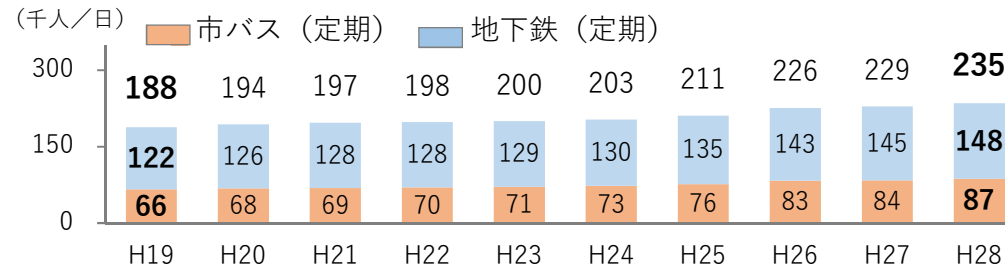
[近年のお客様の動向]

- この間、京都市の進めるひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進と、市バス・地下鉄の利便性向上の取組が相まって、自動車から公共交通へのシフトが進んでいます。この結果、市民の方、通勤・通学の方のご利用増に結びつき、経済状況の好調もあり、特に定期のご利用が堅調に増加してきました。
- また、観光で京都を訪れる方は、3年連続で5,500万人を超える高い水準で推移し、日本人・外国人を含めた宿泊客数は過去最高となり、近年の市バス・地下鉄の好調なお客様数の増加に寄与していると考えています。

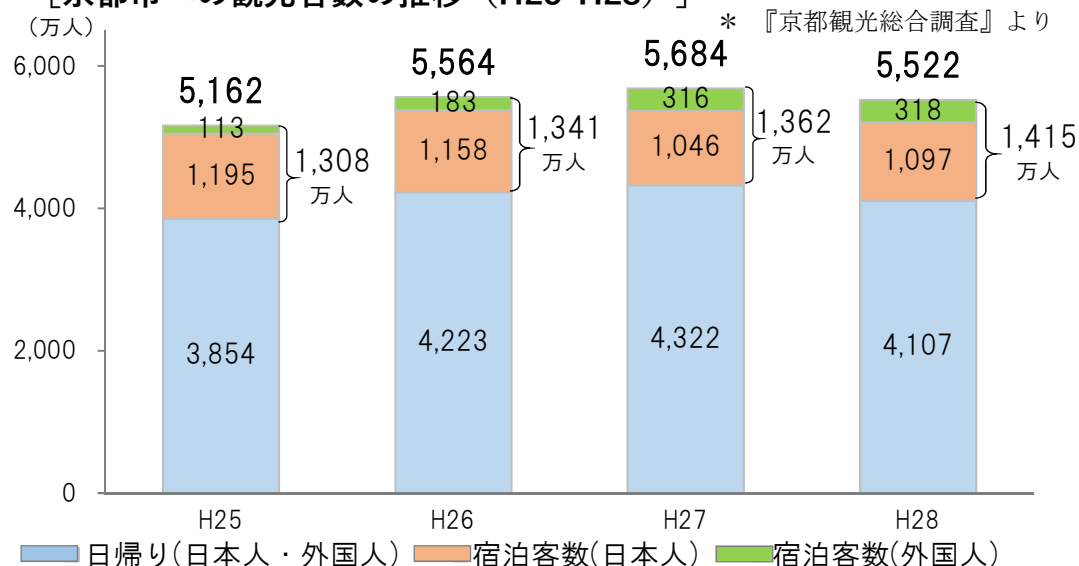
[京都市域内の交通機関別輸送状況（H19-H28）]



[市バス・地下鉄の定期利用のお客様数（H19-H28）]



[京都市への観光客数の推移（H25-H28）]



[今後のお客様を考えるうえでの留意点]

日常のご利用

- ・更なる高齢化の進展により、高齢の方のご利用が増加することが見込まれます。
- ・近年は、京都の都市圏人口が横ばいの中でも、ひとと公共交通優先のまちづくりの推進により、自動車から公共交通へのシフトが進んで市バス・地下鉄のお客様の増加傾向が続いています。

観光のご利用

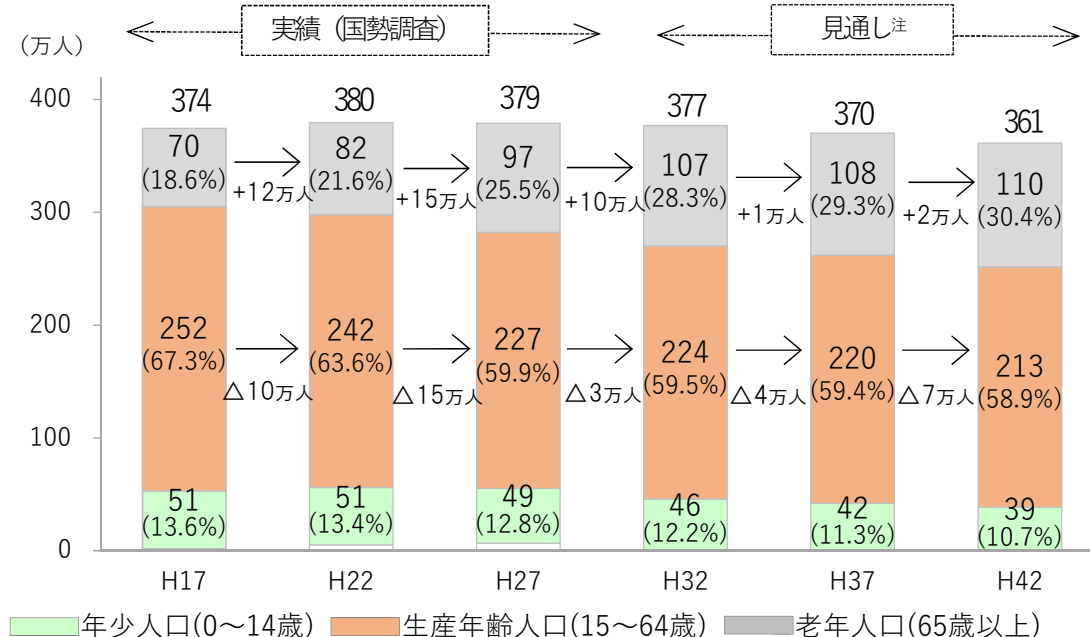
- ・アジア地域への観光客は引き続き増加が見込まれており、基本的には、外国からの観光客は今後も堅調に推移することが想定されます。
- ・宿泊の方が増加傾向にあり、滞在時間が伸びれば市内の移動需要の増につながると考えられます。



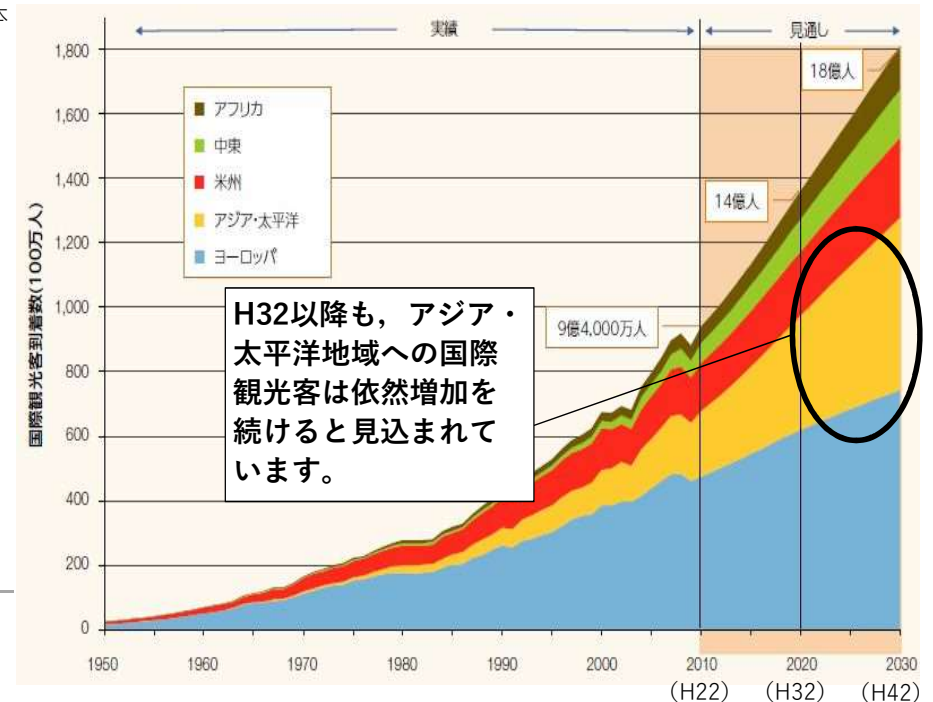
今後も引き続き、市バス・地下鉄のご利用を期待できる方の数は多くおられると考えられます。

[京都都市圏※の人口構造の推移（実績・見込）]

※ 京都市及び京都市に隣接する自治体及び、京都市への就業・通学者（15歳以上）の割合が概ね5%以上の自治体



[国際観光客数の推移（地域別）]



* UNWTO(国連世界観光機関)『Tourism Highlights 2016Edition』

2 今後の事業の方向性と取組の検討について

テーマ1 安全運行の確保について

安全運行の確保は、交通事業者として事業運営の根幹をなすものであり、安全に関する様々な教育・訓練の充実・強化を図るとともに必要な投資を行い、お客様の安全・安心を守る取組を進めています。引き続き安全運行の確保のため、老朽化が進む設備への対応や、どなたにも安全にご利用いただける環境整備に努めていくことが必要と考えています。

[これまでの主な取組]

- 「運輸安全マネジメント」の取組の推進
- 市バスの安全運行に向けた外部機関と連携した研修
- 安全性向上のためのバス車両への設備導入
(ドライブレコーダー、ヘッドライトのLED化等)
- 市バスの安全運転訓練車の活用による事故防止研修
- 烏丸線可動式ホーム柵設置 (烏丸御池、四条、京都の3駅に設置済み)

30年度予算の重点

- **安全性向上のためのバス車両への設備導入**
 - ・ 車両の接近をお知らせする歩行者等への注意喚起装置の設置
 - ・ 夜間乗降時の転倒防止のための乗降口灯のLED化
 - ・ 扉開閉時に注意喚起する案内放送の多言語化
- **駅ホームへの車掌用モニターの設置** (継続)
- **駅出入口への止水板の設置による浸水対策強化** (継続)

[市会からのご意見 (平成30年度予算編成)]

* 参考資料 P 1 参照

- 市バス運転手への安全研修の充実や「運輸安全マネジメント」の取組等の強化
- 烏丸線における可動式ホーム柵の設置
- 地下街、地下鉄及び地下鉄駅への浸水対策 他

[お客様からのご意見等 (「お客様の声」より)]

* 参考資料 P 7 参照

- 市バス運転士の運転操作について
- 地下鉄の車両故障による輸送障害発生時の対応について 他

今後必要と
考える視点

安全意識の向上と安全管理体制の強化

どなたにも安全にご利用いただける環境の整備
(可動式ホーム柵の全駅設置や、安全啓発活動など)

老朽化が進む車両・設備の保守点検の徹底と
計画的な更新

大雨等災害・緊急時の安全の確保と
対応力の強化

テーマ2 質の高いサービスの提供について

交通局では、安全・安心・快適な市バス・地下鉄を目指し、お客様第一のサービスの実践に取り組んできました。今後もより多くのお客様に市バス・地下鉄をご利用いただくためには、お客様に心から満足いただける、より質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいくことが重要と考えています。

[これまでの主な取組]

- 「全国一お客様サービス実践モニター制度」の実施
交通局役付職員により乗務員や駅職員の接客状況を評価
- 京都市バスおもてなしコンシェルジュによるご案内
外国語に堪能なスタッフによるきめ細かな交通・観光のご案内活動
- タブレット端末を活用した多言語での案内
- 英会話出前講座など職員の自主研修の実施
- 「お客様の声」によるお客様ニーズの把握

30年度予算の重点

- 交通サポートマネージャー※の養成
障害のある方や高齢の方などへの接客や介助方法を習得したバス運転士や駅係員を養成
- 市バス・地下鉄案内所への英語対応スタッフの常駐
- 京都市バスおもてなしコンシェルジュによる案内活動の拡充
活動日数を拡大し、手ぶら観光や地下鉄とバスを組み合わせた観光ルートのご案内を充実

[市会からのご意見（平成30年度予算編成）]

* 参考資料 P 1 参照

- 東京オリンピック・パラリンピック開催による入洛客の増加も見据え、多言語による案内や職員の接客向上の取組の推進
- 外国からお越しのお客様に、市バスで気持ちよく観光いただくための、外国語に堪能なスタッフの更なる活用 他

[お客様からのご意見等（「お客様の声」より）]

* 参考資料 P 7 参照

- 市バス運転士や駅職員のお客様接客について
- 市バスの遅延（遅延時のご案内）について 他

※ 障害のある方や専門家が講師となり、講義や実技、グループワークを通してバリアフリーの基礎知識、障害のある方や高齢の方などへの接客・介助の基本及び円滑なコミュニケーションスキルを習得する資格（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団実施）

今後必要と
考える視点

お客様接客の更なる向上

京都を訪れる方へのおもてなしの心によるサービス

高齢の方、障害のある方、外国からお越しの方など、様々なお客様ニーズの的確な把握

テーマ3 市バスの混雑対策について

お客様の増加に伴い、一部路線で生じている市バスの混雑対策は喫緊の課題であり、市バス・地下鉄のネットワーク全体で上手に移動していただくための取組をはじめ、車両の増車による輸送力の増強や、「前乗り後降り」方式の導入など、市民の足としての快適なご利用環境の確保と、観光客の円滑なご利用に向け取り組むことが必要と考えています。

[これまでの主な取組]

30年度予算の重点

- キャリーバック等を配送する手ぶら観光カウンターや「地下鉄・バス一日券」による地下鉄を上手に活用した観光のPR
 - ・ JR西日本等と連携した関西国際空港等からの入洛客へのPR
 - ・ 活動期間を拡充した“おもてなしコンシェルジュ”によるPR
- 「前乗り後降り」方式の洛バス100号系統への導入
- 市バスから地下鉄への振替輸送の拡充
観光シーズンにおいて、京都駅へ向かわれるお客様に対し、市バスから地下鉄へ無料での乗り換えを拡充
※東山駅（東山通周辺から乗換）、北大路駅（金閣寺周辺から乗換）
- 市バスの路線・ダイヤの充実
車両を増車（10両）し、通勤・通学系統等の路線・ダイヤの充実
- 乗車定員の多いラッシュ型車両の導入

[市会からのご意見（平成30年度予算編成）]

* 参考資料P2参照

- 循環バスの同一運賃による乗り継ぎや観光地への増便
- 東山シャトルの運行日の拡大
- 市バスの「前乗り後降り」方式の実施に当たり、課題の解決に向けた具体的取組の推進
- 市バスから地下鉄への振替輸送のスムーズな実施のための丁寧な案内誘導
- 市民の足を妨げないための、市民路線と観光路線の明確な区分けと観光路線の増強 他

[お客様からのご意見等（「お客様の声」より）]

* 参考資料P8参照

- 市バスの増便について
- 車内へのキャリーケースの持込みについて 他

今後必要と
考える視点

市バス・地下鉄ネットワーク全体で
上手に市内を移動していただく

必要な輸送力の増強（新たな車両留置場所の確保や全国的にバス運転士が不足する中での人員確保を含めた検討）

市民の足としての快適なご利用環境の確保と
観光客の円滑なご利用

ソフト面、ハード面
両面からの対策

- 市バスは市内バス輸送の86％，地下鉄は市内鉄道輸送の55％を担う本市の主要公共交通機関です。
- お客様にこのネットワーク全体を上手にご利用いただければ，京都をより快適，便利に移動いただけます。
- 市バス・地下鉄を一体で運営しているメリットを活かし，ネットワーク全体での利便性を高めることで，更に多くのお客様に快適，便利にご利用いただけるよう取り組みます。

① 地下鉄・バス一日券の値下げ

地下鉄・バスが乗り放題となる一日券について，
1,200円から900円に値下げするとともに，
京阪バス（山科・醍醐地域）にも利用範囲を拡大（※）



バス一日券（600円）
 に＋300円で
 利用範囲が大幅拡大



※ 京阪バス（山科・醍醐地域）も利用できる一日券は，これまで1,300円の別カードでしたが，これを900円の一日券に統合

② 乗継割引の適用

- ・ 全国相互利用対応ICカードでの乗継割引を開始
 （60円割引：29年度から）
- ・ 市民利用の多いトラフィカ京カードでの乗継割引を，
60円から120円へと割引額を拡大予定（31年3月）

③ 京都駅への市バスから地下鉄への振替輸送

- ・ 春の大型連休や秋の観光シーズンの土休日混雑時に，東山通周辺や金閣寺周辺から京都駅へ向かわれるお客様に対し，市バスから地下鉄へ無料での乗り換えを実施

④ 市バスと地下鉄を組み合せたご利用のP R

- ・ 地下鉄・バス一日券の利便性のP Rと販売促進
- ・ 地下鉄とバスを組み合せたルートのご案内
 →「バスなび」を「地下鉄・バスなび」に改訂
 民間とも連携し鉄道とバスを組み合せたご利用をP R

⑤ 乗継利便性の向上

■ わかりやすい乗継案内

- ・ 地下鉄駅構内にバス停への乗継案内表示やバス接近表示器を設置
- ・ 駅名の付加呼称を追加したバス停名称
 例：烏丸五条→烏丸五条（地下鉄五条駅）

■ 地下鉄の到着時刻にあわせたバスのダイヤ編成

地下鉄接続駅では，早朝や夜間においてもスムーズに乗り換えていただけるようダイヤ編成を工夫

テーマ4 利便性・快適性の向上について

市バス・地下鉄をより多くのお客様にご利用いただけるよう、これまでから積極的に利便性と快適性の向上に取り組んできました。今後も、市民の皆様、観光客の方、女性、高齢者、障害のある方、外国のお客様など、どなたにとっても便利で快適なご利用環境の充実に向けて取り組んでいくことが必要です。

[これまでの主な取組]

[市バス事業]

- 路線・ダイヤの充実
 - ・平成26年3月の運転計画以降、輸送力を増強し、主要系統の増便等路線・ダイヤを充実（40両以上を増車）
 - ・地域のMM活動と一体となった路線・ダイヤ拡充
- 均一運賃区間の拡大
嵯峨・嵐山地域（H26.3）、岩倉・修学院地域（H28.3）、上賀茂・西賀茂地域（H29.3）へ拡大
- バス待ち環境の向上
 - ・バス停上屋の整備（累計605箇所）
 - ・ベンチ（累計846箇所）、バス停照明（累計1,006箇所）
 - ・バス接近表示器の設置（累計524箇所）
 - ・バスの駅の整備（累計44箇所）

※ 数値は30年1月末時点、バス停標識数は1,615箇所

30年度予算の重点

- 車両を増車(10両)し、通勤・通学系統、主要系統の増便や鉄道との乗継利便性を向上するなど、路線・ダイヤを充実
- バス待ち環境の整備
 - ・市内周辺部等のバス停上屋やソーラー式バス停照明の増設
 - ・バス接近表示器の増設、ベンチの新設と更新、バスの駅の整備
- 市バス行先表示器のフルカラーLED化
- トラフィカ京カードにおける乗継割引額の拡充

[地下鉄事業]

- ダイヤの充実
 - ・夜間ダイヤの充実とシンデレラクロスの実施（H22.3）
 - ・学生利用増に対応した午前10時台の増便（H26.9）
 - ・地下鉄深夜便コトキン・ライナーの運行（H27.10）
- 車内案内表示装置や券売機・精算機の4箇国語化
- 烏丸線トイレのリニューアルなど駅トイレの美化

30年度予算の重点

- 烏丸線：朝夕、通勤・通学時間帯の増便
東西線：京阪列車の太秦天神川行の増便
- 地下鉄車内案内表示装置等の4箇国語化の推進
- 地下鉄烏丸線の駅トイレのリニューアル
- トラフィカ京カードにおける乗継割引額の拡充

ダイヤの
充実

[ICサービスの充実]

- ICOCA定期券の発売、ICカードによる乗継割引の開始（H29.4）
- ICチャージ機能付き券売機・精算機的全駅設置 など

30年度予算の重点

- 地下鉄とJR西日本及び阪急とのIC連絡定期券の拡充
- 地下鉄IC定期券(通勤・継続)を発行できる自動券売機を全駅に拡大
- 地下鉄駅無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置

[市会からのご意見（平成30年度予算編成要望）]

* 参考資料 P 2 ～ P 4 参照

- ICカードサービスの拡充
- 市バス均一運賃区間の拡大
- バス待ち環境の改善
- 市バスの走行環境の改善
- 回送バスを減らすこと

他

[お客様からのご意見等（「お客様の声」より）]

* 参考資料 P 8 ～ P 9 参照

- 市バスの遅延（定時性の向上）について
- 市バスの路線の新設や延長，経路変更について
- 駅施設の案内表示について
- ICカードサービスについて
- 運賃制度について
- ホームページ等による情報発信について
- マナー啓発について

他

今後必要と
考える視点

更に多くのお客様のご利用につなげるための
利便性の向上

どのような方にもわかりやすい市バス・地下鉄
（多言語の表示，様々な情報提供の充実など）

市バス・地下鉄の乗継の利便性の向上
（結節の強化やわかりやすさの向上など）

路線・ダイヤの継続的な改善・充実

どのような方にも快適なご利用環境の整備
（バス待ち環境の更なる充実，駅の環境整備など）

乗車券をより便利に使いやすく
（ICサービス，市バス均一運賃区間の拡大など）

- 市バスネットワークについては、平成24年度に「市バス旅客流動調査」と「市バスお客様アンケート調査」を実施するとともに、学識経験者を交えた「市バス路線・ダイヤ検討委員会」において、現状の分析・評価と今後の方向性についてご意見をいただき、平成25年3月に基本的な考え方を取りまとめました。
- この考え方にに基づき、平成26年3月以降の運転計画では、バス車両を大幅に増車しながら路線・ダイヤを充実し、この間、お客様は大幅に増加してきました。（平成26年3月から平成30年3月までに計54両を増車）
- 一方、近年のお客様の大幅な増加により混雑が課題となるなど、状況に変化も生じています。路線ネットワークのあり方については、改めて検討していく必要があると考えています。

[市バス路線ダイヤ編成の基本的な考え方（平成25年3月）]

ネットワークに関する認識（流動調査、お客様アンケート、有識者ヒアリングを踏まえ）

- ・現状の市バス路線・ダイヤは、お客様の利用実績と要望を基に改善を積み重ねてきたもの
- ・現在のキメ細かい路線網は、乗継ぎを極力少なくするお年寄りなどへの配慮や、基盤の目の街路の特徴を活かす工夫など上手くできており、市民に十分定着

基本的な考え方

既存の系統を生かしながら

- ・きめ細かな路線網、鉄道乗継利便性等優れた点を活かす
- ・利便性向上・わかりやすさ向上を図る
- ・費用対効果を検討したうえで事業規模を拡大する

[路線・ダイヤに関する主な取組]

①主要系統※の増便

増便や早朝・夜間を含め運行時刻の拡大など輸送力を増強してきました。

- ※主要系統
- ・循環系統：市内中心部を循環する系統（200番台のバス）
 - ・観光系統：洛バス（100番台のバス）
 - ・幹線系統：主に京都駅や四条界わいにつながる系統で、旅客数が多くネットワークの骨格を形成する系統

②お客様ニーズを踏まえた急行系統等の充実

集客施設や大学、観光地等をダイレクトに結ぶ系統を充実させることで、市民利用との棲み分けにより既存系統の混雑緩和を図ってきました。

③等間隔運行の拡大

民間バス事業者との連携も含め、系統間のダイヤを調整し長い待ち時間を解消することにより、お客様の利便性を高めてきました。

等間隔ダイヤのイメージ

時	分	7	9	27	29	47	49
11	28	28	28	28	28	28	28
12	28	28	28	28	28	28	28
13	28	28	28	28	28	28	28
14	28	28	28	28	28	28	28
15	28	28	28	28	28	28	28

時	分	7	17	27	37	47	57
11	28	28	28	28	28	28	28
12	28	28	28	28	28	28	28
13	28	28	28	28	28	28	28
14	28	28	28	28	28	28	28
15	28	28	28	28	28	28	28

④鉄道駅との結節強化

地下鉄をはじめ鉄道駅を起点または経由する運行ルートや、鉄道の時刻にあわせたダイヤとすることで、お客様の利便性向上を図ってきました。

市バス・地下鉄をどのような方にも便利にご利用いただくためには、わかりやすい情報の提供が重要です。

これまで、ホームページや印刷物をはじめ、様々な手法で市バス・地下鉄の情報提供を行ってきましたが、今後もよりわかりやすい情報の提供に努めていく必要があります。

これまでの主な取組

[バス・地下鉄の行先案内表示など]

- **地下鉄車内案内表示装置等の4箇国語化の推進**
4箇国語表示ができる案内表示器等に更新，新設
- **市バス車両行先表示器（方向幕）のフルカラーLED化（30年度～）**
視認性が高く柔軟に行先表示の変更が可能な表示器を導入
- **市バス車内案内モニターの増設と表示の4箇国語化等**
混雑時に車両後部でも見やすいよう増設し，表示内容も充実

[案内サインなど]

- **駅構内の案内サインの充実**
駅構内サインを統一的で見やすいデザインに更新（～29年度）
- **地下鉄から市バス乗継ぎの案内**
地下鉄駅構内にバス停への乗継案内表示やバス接近表示器を設置

[お出かけ情報の発信]

- **おふたいむ**
月刊のお出かけ情報リーフレットを発行
- **きゅんきゅんKYOTO**
平安女学院大学との協働で地下鉄駅周辺情報リーフレットを発行

[インターネット等での情報発信]

- **交通局ホームページの運用**
- **スマートフォン用市バス・地下鉄時刻表**
- **スマートフォン用HP「京都市バス・地下鉄ガイド」**
4箇国語に対応した市バス・地下鉄の使い方や運賃，乗場案内など
- **ポケロケサービス**
携帯電話又はスマートフォンで全停留所のバス接近情報を表示
- **乗換検索アプリ「バス・鉄道の達人」**（都市計画局が開発）
GPS機能によるバスの到着予想時間を反映した乗換検索が可能
- **コトチカホームページ**
駅ナカ店舗コトチカや，駅ナカスイーツ，ATMなど駅ナカの利便施設の情報を提供

[印刷物による情報提供]

- **市バス・地下鉄路線図**
全路線・停留所（民間バスを含む）を記載した路線図
- **地下鉄・バスなび**
4箇国語に対応し，観光地を結ぶ主な市バス路線と地下鉄による移動ルートの情報を提供（平成30年3月17日から）
- **ドアちかマップ**（まちづくり100人委員会の協力により製作）
何両目が階段やエスカレーターに近いか一目でわかるマップ

テーマ5 まちづくりの視点に立った取組について

地域主体のモビリティ・マネジメントへの参画をはじめ、本市の基幹公共交通として、ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進や、その他市の施策との連携、地域・企業・大学と協働した取組などを進めてきました。今後も引き続き、まちの活動を支える役割を果たすとともに、観光や文化をはじめ市の施策との連携を進める必要があります。

[これまでの主な取組]

- 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充
- 文化・芸術との連携
(駅ナカアートプロジェクト、京都らしいバスラッピング等)
- 大学との連携 (公共交通振興等に関する協定の締結)
- 地下鉄車両・施設照明のLED化など環境対策

30年度予算の重点

- **地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充**
 - ・ 増便：北区西賀茂北部(柊野)地域、西京区福西学区、西京区松陽学区
 - ・ 新たな運行：上京区仁和学区
- **民間との共汗による公共交通の利用促進**
民間事業者とも連携し、市バス・地下鉄だけでなく民間鉄道・バスを含めた公共交通の利用促進の取組（「チーム電車・バスに乗るっ」）

[市会からのご意見（平成30年度予算編成）]

* 参考資料P 4 参照

- 市内周辺地域などのバス路線の充実
- 山科区など市内周辺の民間バス運行地域でのバス路線の充実
- 省エネ設備への切換えや環境に優しい車両の導入
- 文化首都京都のまちづくりの視点も重視した経営ビジョンの策定
- 西京区への地下鉄東西線の延伸もしくはLRTなどの運行による交通網の拡充 他

[お客様からのご意見等（「お客様の声」より）]

* 参考資料P 9～P 10 参照

- 沿線の人口増などに応じた、バス路線やダイヤの充実について
- 市バス・地下鉄車両の京都らしいデザインについて
- 地下鉄車両へのLEDの導入について 他

今後必要と
考える視点

まちの活動を支える公共交通サービスの提供

文化・観光の振興等、市の魅力向上・発展への寄与

ひとと公共交通優先のまちづくり
「歩くまち・京都」の推進のリード

健康長寿、環境都市、大学のまちなど
本市施策との連携

市バスのご利用が少なく、十分な採算を見込むことが難しい市内周辺地域においては、市バスを利用するという機運の盛り上がりは何よりも重要です。そのため、地域の皆様が主体となり実践するモビリティ・マネジメント（MM）※に、区役所、交通局が協働して、市バスの路線・ダイヤの充実を図るよう取り組んでいます。

※ モビリティ・マネジメント（MM）とは

かしこいクルマの使い方を考えて実践していただくため、例えば、交通手段のCO₂排出量の比較などを盛り込んだ啓発冊子や、公共交通利用促進マップ、交通行動に関するアンケートなどを活用し、回答者の自発的な交通行動の変化を促すこと。

[市バス運行エリアでMMの取組が進む7つの地域]

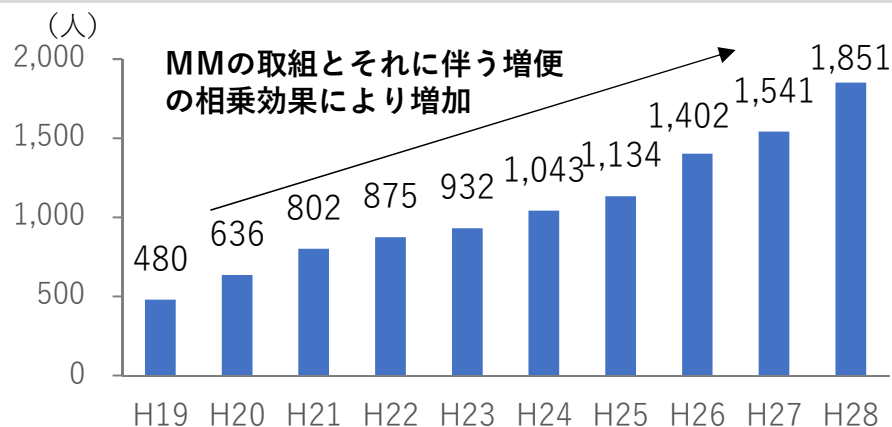
- 1 右京区／南太秦学区（70号系統）
- 2 伏見区／久我・久我の杜・羽束師地域（南2号系統）
- 3 西京区／松陽学区（69号系統）
- 4 西京区／福西学区（特西4号系統）
- 5 伏見区／伏見桃山・中書島（南5，急行105号系統）
- 6 北 区／柊野学区（特37号系統）
- 7 上京区／仁和学区（52号系統）

[MM実践による市バス運行の判断基準]

- ・安全に運行できる走行環境が確保されていること
- ・地域にMMの継続的な推進体制があること
- ・採算ラインの2分の1程度の利用者が運行当初に見込めること

3年をめどに市バスの試行運行を実施し、その結果を踏まえ、運行の継続・終了を判断する

[70号系統の1日あたりのお客様数]



[利用促進に向けた地域の皆様による冊子の発行（松陽学区）]



テーマ6 経営基盤の強化について

市バス事業では、一般会計の任意補助金に頼らない自立した経営の堅持、地下鉄事業では、平成30年度までの経営健全化団体からの脱却に向け、増収増客やコスト削減等の健全化の取組を推進してきました。今後も、将来にわたり安定的に事業を運営していくため、中長期的な視点に立ち、両事業一体で経営基盤の強化に努めていくことが必要です。

[これまでの主な取組]

- 収入増加策の推進
 - ・ 全庁を挙げた増客の取組（地下鉄5万人増客、地下鉄市バスお客様1日80万人）
 - ・ 駅ナカビジネスの積極的な展開、広告料収入の確保 など
- コストの削減
 - ・ 市バス管理の受委託、駅職員業務など民間委託の実施
 - ・ 市バス車両・地下鉄設備の更新年数の延長 など
- 財源の確保等
 - ・ 地下鉄事業への一般会計の支援（経営健全化対策出資金（～29年度）など）
 - ・ 市バスから地下鉄への財政面の支援（29年度～：利益剰余金の一部を出資） など

30年度予算の重点

- ・ 市バス：一般会計からの任意補助金に頼らない自立経営を堅持する予算
- ・ 地下鉄：計画から1年前倒しでの経営健全化団体脱却を前提とした予算
- 明治150年関連イベント、市バス90周年や民間事業者と連携したイベントの開催等による増客
- 市バスから地下鉄への出資、市バスの多額の車両・設備更新に備えた積立て
- 大型二種免許未取得者を対象とした市バス運転士の新たな採用方式の導入

[市会からのご意見（平成30年度予算編成）]

* 参考資料 P 5 ～ P 6 参照

- 市バスと地下鉄1日お客様80万人の目標の達成
- 市バス事業の自立経営の維持
- 市バスと地下鉄が共に支えあい安定した経営基盤を確立
- 一般会計からの繰入金の圧縮
- 国の補助制度の拡充
- 管理の受委託、整備委託など民間委託の撤回
- 地下鉄設備更新の計画的・効率的な取組 他

[お客様からのご意見等（「お客様の声」より）]

* 参考資料 P 10 参照

- 駅ナカスペースの有効活用について
- 市バス・地下鉄グッズの販売について
- イベントの開催について 他

今後必要と
考える視点

増収増客策の推進

安定的な人材の確保
（全国的なバス運転士等不足への対応）

安全性に配慮した
設備更新費用の抑制と平準化

中長期的な視点に立った
市バス・地下鉄一体での計画的な財政運営

お客様増加策の推進

京都市全体でのひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進と、全庁を挙げた増客策の取組によりお客様が増加し、定期のお客様も着実に増加してきました。今後も、これまでの取組を踏まえ、更に多くのお客様に安定的にご利用いただけるよう取り組んでいく必要があります。

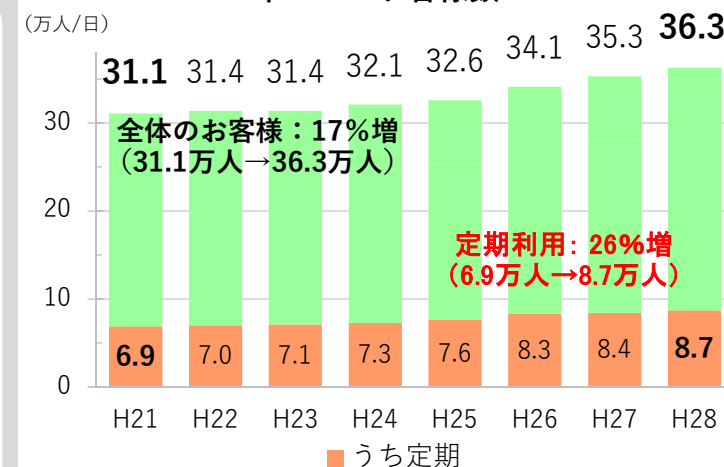
[これまでの主な取組]

- **地域や事業者との協働によるひとと公共交通優先の歩くまち・京都の取組推進**
→自動車から公共交通へのシフトが進んだことなどから、市バス・地下鉄の定期券でのお客様が大きく増加しました。
- **駅及び沿線での観光・集客イベントの開催**
→京の七塔などの大型イベントや、沿線施設の二条城、美術館などでの魅力的なイベントの開催などにより、多くの人の移動が生まれました。
- **地下鉄を核としたまちづくりの推進、大学のまち京都・学生のまち京都の推進**
→同志社大学文系学部の今出川への移転や、京都学園大学の太秦キャンパスの開設、ロームシアター京都の開業など施設の整備が進みました。
- **利便性の向上**
→バス車両の増車による市バスの路線・ダイヤの充実や、地下鉄における夜間ダイヤの充実、ICサービスの充実など利便性向上の取組を進めました。

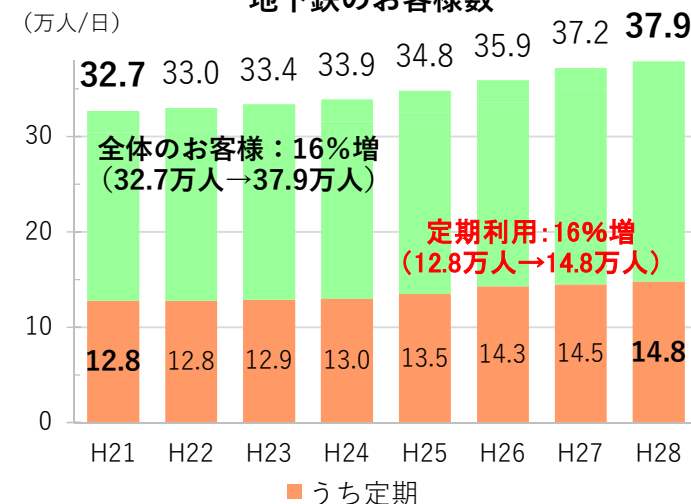
[今後の検討の視点]

- **市バス・地下鉄をはじめ、公共交通全体のご利用を促進する取組**
→民間事業者と積極的に連携した公共交通の利用促進（次頁参照）
- **市バス・地下鉄の利便性向上、市バスの混雑対策**
→お客様の増につながる利便性・快適性の向上、安全で信頼されるサービスの提供
- **沿線での人の移動を生む取組**
→地下鉄沿線・市バス運行エリアでのイベントの開催、観光や商業施設との連携
- **その他、市バス・地下鉄の乗継利用の促進や、安定的なご利用が見込める定期券や市民の方のご利用の促進に向けた取組など**

市バスのお客様数



地下鉄のお客様数



ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の更なる推進に向け、市バス・地下鉄だけでなく他事業者も含めた公共交通全体のネットワークの利用促進を図るため、平成29年7月に大学や商業施設、集客施設、交通事業者の皆様、本市関係局区とともに、新組織「チーム『電車・バスに乗るっ』」を立ち上げ、取組を推進しています。

[チーム「電車・バスに乗るっ」参画団体（平成30年3月現在）]

■ 沿線の各種団体の皆様（22団体五十音順・敬称略）

京都御池地下街（株）
 京都学園大学
 京都国際マンガミュージアム
 京都国立博物館
 （公財）京都市音楽芸術文化振興財団
 （公社）京都市観光協会
 京都シティ開発（株）
 京都市内博物館施設連絡協議会
 京都醍醐センター（株）
 京都府京都文化博物館
 （公財）京都文化交流コンベンションビューロー
 京阪電気鉄道（株）
 ジェイアール京都伊勢丹
 大丸京都店
 高島屋京都店
 東映太秦映画村
 西日本旅客鉄道（株）
 東山三ヶ寺巡り
 B i V i 二条
 （株）藤井大丸
 平安女学院大学国際観光学部
 元離宮二条城事務所

■ 京都市（15団体）

総合企画局
 文化市民局
 産業観光局
 保健福祉局
 都市計画局
 左京区役所
 中京区役所
 東山区役所
 山科区役所
 下京区役所
 右京区役所
 伏見区役所醍醐支所
 教育委員会事務局
 交通局

若手職員増客チーム

* これまでの取組の例

■ 鉄道とバスを組み合わせた観光ルートでのPR
 （JR西日本との連携）

JR京都駅構内に鉄道とバスを組み合わせた観光地アクセスの掲出や、関西国際空港での英語チラシの配布などの取組



【JR京都駅構内の案内表示】

■ 特別展覧会「国宝」に合わせた文化振興の取組
 （京都国立博物館、文化市民局との連携）

国宝のデザインのラッピングバスを運行、国宝を巡るスタンプラリーを開催し、市バス利用と京都の文化財をPR



「国宝ラッピングバス」の運行（平成29年9月～12月）

◆ 今後の予定について

年 度	回	時期（予定）	議題等	備 考
平成 29年度	第1回	8月30日	事業概要，これまでの取組経過，今後の課題等について	
	第2回	12月11日	経営の現状と今後の財政需要，経営基盤強化の取組の方向性について	
	第3回	3月20日	お客様の動向と，今後の事業の方向性と取組の検討について	第3回までの議論を踏まえ，経営ビジョン骨子案を交通局内でとりまとめます。
平成 30年度	第4回	5月頃	経営ビジョン骨子案（パブリックコメント案）について	第4回検討委員会の議論も踏まえ，骨子案を基にパブリックコメント（市民意見の募集）を実施します。
	第5回	9月頃	パブリックコメント結果を踏まえた経営の方向性について	
	第6回	11月頃	第5回までの議論を総括し答申のとりまとめ	
	—	12月頃	答申の提出	検討委員会からの答申を受けて，交通局において平成30年度末に経営ビジョンを策定します。